

3 グローバル人材育成プログラム

現状・変化

海外の学校と姉妹校提携を締結している県立学校数、県立高等学校や県内大学等における海外への留学生数は堅調に推移してきましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受け、各国において入国禁止や入国後の行動制限の措置が講じられていることから、海外への留学が困難な状況になっています。一方で、県立高校生の科学コンテストへの参加者数は高水準を維持しており、科学への興味関心の裾野が拡大しています。今後、グローバル化の進展により、直面する課題を発見し、言語や文化の異なる人と協働して解決できる能力が求められます。また、Society5.0の到来により、AIやビッグデータ等の情報処理技術を基盤とした人材の重要性がより高まります。

課題

自らの郷土や国の伝統・文化を大切にする心を持ち、豊かな語学力・コミュニケーション能力や、異文化を理解する精神等を有するとともに、膨大な情報から、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値や行動を生み出すことのできる人材を育成することが必要です。

施策の方向性

英語力の向上、高校生や大学生等の海外留学の促進、日本文化を学ぶ機会の充実等により、国際的に活躍できる人材を育成します。また、Society5.0の到来も見据え、情報処理や地域課題解決の基盤となる能力を身に付ける教育の充実を図るなど、新しい時代の要請に応えられる人材の育成を進めます。



生き生き指標

○県内大学等及び高校からの海外留学生数※	大学等 1,379人/年	>>>>	1,380人/年
	高校 623人/年	>>>>	630人/年
○インターネットを介して海外の学校や大学等と直接交流をしている県立高校の数	7校	>>>>	52校
○全国規模の理数・情報・政策提案等のコンテストへの県立高校生の参加者数	611人/年	>>>>	730人/年

※：新型コロナウイルス感染症の大きな影響からの回復を目指す「生き生き指標」



重点施策

■ 国際的に活躍できる人材の育成

ALT(外国語指導助手)やネイティブスピーカーレベルで英語を話すことのできる人材や、ICT等を活用し、小・中・高等学校における英語4技能を意識した英語教育の充実を図ります。

また、新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、海外姉妹校提携も活用した高校生の海外留学や国際交流の促進、高校生や大学生等の海外留学への関心・意欲の喚起、海外留学にチャレンジする学生の支援などを行うとともに、ICTを活用したオンラインによる国際交流に積極的に取り組むなど、実践的な語学力やコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指します。

さらに、地域を学ぶ機会や伝統文化・芸能に親しむ機会を充実することで、我が国や郷土の伝統・文化を深く理解し、その継承・発展に努め、世界に発信する姿勢を育みます。

■ Society5.0に向けた人材の育成

AIやデータを理解し、使いこなす力を身に付けるとともに、AIにはない人間の強みを生かして、他者と協働しながら新しい価値を創造する人材の育成に向け、STEAM教育(いわゆる文系・理系の枠を越えた学び)やデータサイエンス、プログラミング教育、課題解決的な学習の充実を図るなど、子どもたちの優れた能力、才能、個性を伸ばす教育を推進します。



推進施策

□ 時代の変化に対応した魅力ある学校づくり

生徒数の減少が進む中、学習環境の維持向上を図り、学校の活力を高めていくことができるよう、県立高等学校の魅力化・活性化に取り組みながら再編整備に向けた検討を行い、令和6(2024)年度に「再編整備アクションプラン」を策定します。県立高等学校の教育体制の整備に当たっては、時代の変化に対応した新しい教育内容の研究や学校ICT環境をはじめとした施設・設備の整備を進め、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)や地域学校協働活動など、地域や地元自治体・大学等との連携・協働を推進することで、時代の変化に対応した人材育成に資する、魅力ある学校づくりを進めます。

□ 高等教育機関における実践的な人材育成等の推進

県内の大学や専門学校など高等教育機関が、社会が求める実践的な人材育成や教育研究を行えるよう支援し、地域社会の担い手となる人材の集積、定着を図ります。

また、特に岡山県立大学においては、その知見や人材等を活用して、企業や自治体を持つ課題の解決につなげられるよう、マッチングの支援に努めることにより、県内就職率のさらなる向上を図り、地域に貢献できる人材の育成に努めます。

関係部局

教育委員会、総務部、県民生活部、産業労働部